

# 人生ハンド仏句

第125号

H. 24. 8. 1

(毎月1日発行)

日蓮聖人の生涯⑥

佐渡流罪

住職 谷川 寛俊

日蓮聖人をなんとかして亡き者にしようとはあらゆる手段を用いても、一命をとどめることが出来なかった幕府は、ついに北国寒山佐渡ヶ島へと流罪にしたのでした。佐渡へ流されて、最初に落ち着いたのは、三味堂(さんまいどう)という死者を葬る場所の側に建つあばら屋で、板の隙間から雪が降り積もるといふ状態でした。食べる物はなく「雪を食とする」というお言葉がいかに毎日が死と直面する日々を過ごされたかが伺い知ることが出来るのです。その上、佐渡をはじめ、越後や北

陸の念仏者達が、いつ襲って来るかも知れないという生命の危険にもさらされていきました。

流罪の翌年、文永九年(一、二七二)一月には、島内のみならず、北陸や越後の僧らが百名ほど集まり、三味堂の前で問答が行なわれたが、日蓮聖人を論伏出来るものは一人としていませんでした。

この問答が終わって領主の本間氏が帰ろうとした時、聖人は呼び止めて「鎌倉で内乱が起きようとしているのに、あなたは早く鎌倉に行かなくていいのか。」と言い、やがてそれが後の二月騒動(北條時輔の乱)として現実化し、本間氏を敬服させました。

こうした厳しい生活の中で、日蓮聖人は翌年の二月には「開目抄(かいもくしょう)」を著し、鎌倉の四条金吾を介して門下に示されました。題名の意味は、末法の世の中で人々が法華経の救いに眼を開いて、しつかり

「人生ハンド仏句」と打ち込んで頂けば、ホームページにつながります。

編集・発行  
玉蓮山 真成 寺  
編集部 谷川久仁子  
TEL・FAX 0765-22-2268

と確かめるようにと言う内容です。「開目抄」は、末法の法華経の行者としての聖人の強い自覚に裏付けられた重要な書であり、聖人が自らの体験によって法華経の予言を現実のものとしてきたのは、「我れ日本の柱

とならん、眼目(がんもく)とならん、大船(たいせん)とならん」という三大誓願に基づくものであることを明らかにされています。

文永十年には、三味堂から一(いち)の谷(さむ)の一の谷入道の家に移されました。一の谷入道は内心ひそかに聖人に帰依しだし、やがてその家族は皆聖人に信伏し、仕えるようになり、また、阿仏坊夫妻の厚い外護(げご) (助け)も受け、三味堂での飢餓(き)がと艱苦(かんく)の危険的状况はいちおう回避されました。

同年四月に書き上げられましたが、「観心本尊抄」で門下の富木常忍(と)きじょうにん)を通じて門下一同に送られたこの書こそ、聖人一生の中心で

あり、宗教の眼目、宗旨の根幹を表わされたものです。

題名は、「釈尊が入滅された後、即ち末法のはじめに改めて信仰の在り方と崇(あ)める本尊を明らかにする。」という意味です。

「開目抄」で明らかにした内容を、さらに教義理論をもつて詳しく述べたものです。

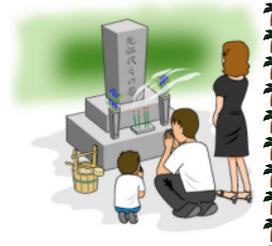
それから三ヶ月後、法華経の救いを大きく紙面に書かれた「大曼荼羅本尊」を初めて図顕(ずけん)されました。

それは、日蓮聖人が法華経の救いを魂を込めて明らかにしたものです。

翌、文永十一年(一、二七四)、突如として流罪が許され、三月十三日に佐渡を出発し、二十六日に鎌倉に到着されました。当時、佐渡から許されて帰る人はいないという中で、(順徳天皇さえも帰ることが出来なかった)奇蹟的な鎌倉への生還でした。

以下次号





# ◎お盆施餓鬼大法要

八月十六日(木)

午後二時～

塔婆供養受付中!



## お願い

お墓にお供えされたお供物は、各自片付けて下さいますよう、お願い申し上げます。

※ なお、お墓にお供えされたお供物は、山門の前に設置してあるコンテナの中に納めて、お帰り下さいますよう、どうぞご協力下さい。

# お知らせ

◎一日祈願会(ついたちきがんえ)

毎月一日 午前五時

五時励行にお勤めが始まります。ご祈禱をして頂き、今月の霊神符(お守り様)を受けましょう!

◎水子供養会

※今月はお盆休みです。

◎唱題行脚

※今月は変更しています

・二十七日(水)

・午後一時半より

先月は、今夏最高気温記録34、8度(富山市)の暑い日でした。途中お茶をご馳走になり、元気に回って来られました。

先月の参加者

- 谷川寛敬・伊藤宗治・土居可久子・高田富美子・谷川知世・谷川天花

## 大谷のお墓掃除終える

先月二十二日(日)おかげさまで無事に大谷のお墓掃除も終わりました。今年は、大勢の方に参加いただき、仕事も捗りました。仕事は大勢、うまいもんなん。。です(笑)お疲れ様でした。

- 大谷墓掃除奉仕者  
 住職・館弘之・吉田富士夫・  
 吉田洋子・島津孝一・島津恵美子・  
 瀬川弘一・経崎博春・伊藤宗治・  
 上野正峰・高木昶



## ラニ・フラ・ホア



毎日暑い日が続いていますが、フラで暑さを吹き飛ばしています♪先日、ロータリークラブさんから出演依頼があり、納涼祭に行つて参りました。今回は、特に若手ご要望だったので、そのようにプログラムを組んで踊ってもらいました。皆さん大喜びで、あちらこちらからアンコールの声がかかり、ホッと致しております。未熟な部分もあるかと心配しておりましたが、やっぱり若いっていいですね。今月は、富山県信用組合さんの納涼祭での出演依頼があります。

日時: 8月24日(金)

6時～ 出演は8時頃

場所: 富山県信用組合駐車場  
お時間が許せば覗いてみて下さい。

